

千綿っ子だより

ちからを合わせて
わらい声あふれる
たのしい学校



暮らしの中のお茶

私の母はお茶が好きで、お茶屋さんに出かけては、量り売りされているお茶を購入して飲んでいました。ですので、私は幼い時、ちょっと離れたお茶屋さんまで、母の買い出しによくついて行っていました。私は、お茶が好きな子供だったのではなく、お店のおじさんがお土産としてくれる金平糖や、マーブル模様の飴が好きで、「今日ももらえるかな…」と期待をふくらませながら出かける子供でした。（お恥ずかしい…）

そんな私が、東彼杵町にきて初めて知ったことがあります。それは、「テーブル茶道」。茶道と言えば、茶室で畳の上に正座をして、決められた所作どおりにお茶をいただくというような、とても格式が高いイメージがあります。四季折々にちなんだ和菓子が添えられ、茶室の中の生け花や掛け軸などを鑑賞しながら、おもてなしを楽しむのが伝統的な茶道の特徴でしょう。

一方、もう少し気軽に、椅子に座ってテーブルで誰でも無理なく楽しめるのが「テーブル茶道」だそうです。現代では、スタイルを変えながらお茶の文化に親しみ、新しいおもてなしの形が創り出されていることを初めて知りました。

本校では、3年生が総合的な学習の時間で地域学習としてお茶を学びます。また、5年生は家庭科でお茶の淹れ方の学習を行います。さらに、本年度は、6年生が大阪万博のオランダパビリオンで、おいしいそのぎ茶を淹れておもてなしをする予定です。スタイルは変化してきましたが、自然の恵みに感謝をする心、そのぎ茶栽培にかかわる人々の苦労や工夫を知り、ふるさとを大切に思う郷土愛など、時代を超えた大切なことについて千綿を舞台に子供たちと学んでいきます。



6年生は、町総務課の職員の方やグラフィックデザイナーの久保さんのアドバイスをもらいながら、大阪万博で東彼杵町をアピールする「ふるさとCM」づくりに挑戦！



3年生が**さんの茶工場見学に出かけました。お世話になりました。